



桂文珍(かつら ぶんちん)



1948年(昭和23) 兵庫県生まれ
 1969年(昭和44) 大学在学中に五代目桂文枝に入門
 2009年(平成21) 芸術選奨文部科学大臣賞受賞
 2010年(平成22) 紫綬褒章
 2014年(平成26) 大阪市民表彰文化功労賞

上方落語界を代表する一人。時代の波を鋭くキャッチするセンスを持ちながら、知性と庶民性をほどよく融合させたキャラクターは文珍ならではの。古典はもちろん、常に時代を切り取った新作も高い評価を得ている。2008年4月には「なんばグランド花月」にて前人未到の10日間連続独演会を開催。2007年10月～2012年に至るまで47都道府県にて全国独演会ツアーを3回実施、現在も独演会、落語会を通じ全国に笑いを届けている。

桂宮治(かつら みやじ)



2008年(平成20) 桂仲治門下として二月下席より浅草演芸ホール楽屋入り
 2008年(平成20) 浅草演芸ホールにて初高座「子ほめ」
 2012年(平成20) ニツ目昇進
 2021年(令和3) 真打昇進

2021年5人抜きの高座真打に昇進。2022年日本テレビ「笑点」のメンバーとなる。

桂米園治(かつら よねだんじ)



1958年(昭和33) 大阪府生まれ
 1978年(昭和53) 父である桂米朝に入門
 1992年(平成4) 大阪府民劇場奨励賞 受賞
 2005年(平成17) 兵庫県芸術奨励賞 受賞
 2008年(平成20) 五代目桂米園治を襲名

NHK連続テレビ小説「てるてる家族」や舞台・映画を数多く出演。趣味はピアノ演奏、絵画、モーツァルト・古代史・国際経済の研究と幅広く、オーケストラとの競演の仕事も多くあり、オペラと落語を融合した「おべらくご」という新ジャンルも確立。「王道を見失わずに歩む」を信条に古典落語に対しても真摯に取り組んでいる。

番組表

公演日	開場時間	開演時間	終演時間(予定)
5月24日(金)	17:00	17:30	20:00

札幌文化芸術劇場 hitaru					
公演名・出演者					
これ聴かには損!					
桂宮治	桂米園治	桂南光	しゅんぶうてい いちのすけ	春風亭一之輔	桂文珍

参加費: **4730** 円税

※お申込み後のキャンセル・変更はお受けできません。
 ※チケットは紛失、当日忘れ等いかなる場合でも再発行は致しかねます。
 ※スケジュール・出演者・出演順は都合により変更になる場合があります。

桂南光(かつら なんこう)



1970年(昭和45)桂小米(故・枝雀)に入門、芸名桂べかこ
 1972年(昭和47)トップホットシアターで初舞台
 1981年(昭和56)朝日上方落語名人選新人コンクール優勝
 1986年(昭和61)咲くやこの花賞受賞
 1990年(平成2)大阪府民劇場奨励賞受賞
 1993年(平成5)大阪・サンケイホールにて三代目桂南光襲名
 1994年(平成6)上方お笑い大賞受賞
 2011年(平成23)京都・南座にて「桂南光還暦記念公演」を開催
 2021年(令和3)京都・南座・大阪松竹座など全国20カ所で行った古希記念ツアーを開催
 2022年(令和4)芸術選奨大衆芸能部門文部科学大臣賞受賞、京都府文化観光大使就任

1970年桂枝雀に入門、桂べかこの名でお茶の間の人気者に。1993年三代目桂南光を襲名。米朝一門の看板として全国での落語会に出演するとともにテレビ、ラジオでも活躍。芸歴50年を超え、さらに磨きのかかった話芸を存分にお楽しみください。

春風亭 一之輔(しゅんぶうてい いちのすけ)



2001年(平成13) 日本大学芸術学部卒業 春風亭一朝に入門 前座名「朝左久」
 2004年(平成16) ニツ目昇進「一之輔」と改名
 2012年(平成24) 真打昇進

現在、最もチケット入手が困難な落語家のひとり。人間国宝・柳家小三治が「久々の本物」だと称賛し、21人抜きで真打に大抜擢。2010年、NHK新人演芸大賞、文化庁芸術祭新人賞、2012年、国立演芸場花形演芸大賞を2年連続で大賞を受賞するなど多数受賞。真骨頂は、古典落語を守りながらも、現代的なギャグをいれるなど自分の言葉で大胆にアレンジすること。さらに高座に上る度にセリフを練り直し、絶えず進化させていく。